

東通原発地点海域温排水等影響調査

奈良 賢静・小倉大二郎・早川 豊・田中 俊輔

発表誌名

昭和61年度東通原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

1. イカナゴ稚仔分布調査

東通村白糠～小田野沢沖の海域において5月～6月にかけ延3回（計47点）、光力利用敷網によりイカナゴ稚仔の採集を行った。

イカナゴ稚仔の分布量は、盛漁期にあった第1回調査（5月上旬）で最も多かった。分布量を水深別にみると、水深20m線で少なく、例年通りの結果であった。

このほか、尻労、白糠、泊地区のイカナゴ漁着業船者による標本船調査を実施し、その結果本年の尻労～泊にかけてのイカナゴ漁は4月下旬から始まり5月下旬終漁期をむかえていた。またこの間水温は7.0～10.5℃に推移していた。

2. ヒラメ浮遊期仔魚分布調査

同上海域において7月～8月にかけ延2回（計20点）稚魚ネットにより仔魚の採集を行った。仔魚は7月の調査で1尾採集された。

3. ヒラメ着底期稚魚及びイカナゴ成魚、未成魚分布調査

同上海域において8月～9月にかけ延2回（計16点）、桁網による採集を行った。

ヒラメは計3尾採集され、全長より当才魚1尾、1年魚2尾と推定された。

イカナゴは計3尾採集され、体長より全て当才魚（未成魚）と推定された。

4. サケ稚魚分布調査

イカナゴ稚仔分布調査と同時に採集を行ったほか、白糠、小田野沢両漁港内で投網採集を行った。

サケ稚魚の分布量は第2回調査（5月下旬）に最も多く、水深別では5m線で多かった。

老部川及び小老部川から放流された標識サケ稚魚は放流後速やかに沿岸に分散し、小田野沢周辺海域を中心に滞泳したのち、5月下旬以降、6月上旬の間に6～7cm台に成長して調査海域より移動したものと考えられた。

調査海域内では期間を通じて老部川及び小老部川から放流されたサケ稚魚が分布の主体を占め4月放流群は5月下旬までに尾又長8cm台前後に成長して沖合へ移動したものと推測された。